

META CRÈME

危険性警告コード
(HAC):
低い

Chemwatch 製品安全データシート

更新番号: 2.0

Chemwatch 16-0409

作成日: 2008年9月1日

CD 2008/4

セクション 1 - 化学物質等および会社情報

化学物質等の名称
META CRÈME

サプライヤ

ChemWatch Pty Ltd

+61 3 9573 3112 or (where available) Toll Free +800 2436 2255

Email chemwatch@chemwatch.net

危険有害性評価

	最小	最大	
引火性:	1		
毒性:	0		
接触毒性:	0		
反応性:	1		
慢性毒性:	0		

最低 / ゼロ=0
低い=1
中程度=2
高い=3
最高=4

用途

Protection for masonry substrate.

セクション 2 - 組成・成分情報

名称	CAS番号	INT HAZ	%
siliones, proprietary			<50
other ingredients not contributing to the classification			

セクション 3 - 危険・有害性の要約

概要

リスク

健康影響

急性健康影響

飲み込んだ場合

» EC指令または他の分類基準により「摂食すると有害」に分類されていない。

これは、動物またはヒトの補強証拠が不足しているためである。

しかしながら、特に明白な既存の臓器障害（肝臓や腎臓等の障害）がみられる場合には、摂食により人体に健康障害を生じることがある。

物質の有害性または毒性を特定するための現行の定義は、一般的に、疾病や健康障害等を引き起こす羅病量ではなく致死量に基づく。

胃腸系の不快症状により、吐き気および嘔吐が生じることがある。

しかしながら、作業環境における微量の経口摂取が懸念を引き起こすとは考えられない。

眼

» 刺激性物質であるとは考えられない（EC指令の分類と同様）。しかしながら、眼との直接接触により、流涙または結膜発赤（風焼けの症状と同様）を特徴とする一過性の不快感を引き起こすことがある。

皮膚

» 接触により健康に悪影響を及ぼすとは考えられない（動物モデルを使用するEC指令の分類と同様）。

しかしながら、適正衛生規範（GHP）によると、作業環境下で暴露を最小限に抑え、適切な手袋を使用する必要がある。

» 切創、擦過傷、あるいは病変部などを通じて血流に侵入することにより、

有害性影響を伴う全身性疾患を引き起こすことがある。

使用前に皮膚を検査し、あらゆる傷口を必ず適切に保護しておくこと。

吸入

» 健康への悪影響および呼吸器系への刺激を与えるとは考えられない（動物モデルを用いているEC指令の分類と同様）。しかしながら、適正衛生規範(GHP)によると、作業環境において暴露を最小限に抑え、適切な抑制措置を講ずる必要がある。

慢性健康影響

セクション 4 - 応急措置

飲み込んだ場合

»

直ちにコップ1杯の水を飲ませる。

通常、応急処置は必要ではない。疑問がある場合には、毒物情報機関あるいは医師と連絡を取る。

眼

» 眼に入った場合：

水を用いて直ちに洗い流す。

刺激が続く場合には、医師の診断を受ける。

眼の損傷後におけるコンタクトレンズの除去は、必ず専門技術を有する者が行うこと。

皮膚

» 皮膚あるいは毛髪に触れた場合：

流水(できれば石鹼も)を用いて、皮膚および毛髪を洗浄する。

刺激がある場合には、医師の診断を受ける。

吸入

»

フュームまたは燃焼生成物を吸入した場合、汚染場所から退去する。

通常、他の措置を講ずる必要はない。

医師に対する特別注意事項

» 対症的に治療する。

セクション 5 - 火災時の措置

消火剤

»

水スプレーまたは霧
泡
乾燥化学粉末
BCF（規則により許可される場合）
二酸化炭素

特有の消火方法

»

消防署に通報し、危険・有害性の場所および内容を伝える。
呼吸装置および保護手袋を着用する。
あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐ。
水の微細噴霧を利用し、鎮火および火災現場周辺の冷却に努める。
高温であると疑われる容器に接近してはならない。
火災に暴露した容器を安全な場所から水噴霧で冷却する。
安全性が確保される場合、延焼経路から容器を取り除く。
使用后、器具を完全に除染すること。

火災および爆発の危険性

»

可燃性。
熱または火災への暴露に際する火災の危険性は低い。
加熱により膨張または分解し、容器が激しく破裂することがある。
燃焼すると、一酸化炭素（CO）の毒性フェームを放出することがある。
刺激性の煙を放出することがある。
可燃性物質を含むミストは爆発することがある。

燃焼生成物の例、二酸化炭素（CO₂）、二酸化ケイ素（SiO₂）、燃焼有機物特有の、その他の熱分解生成物。
混触危険 / 火災関連

» 発火する可能性があるため、硝酸塩、酸化性酸、塩素系漂白剤、プール塩素などの酸化剤による汚染を避ける。

保護具

目の保護具：

ケミカルゴーグル

手の保護具：

多量に取り扱う場合：

一般用ゴム手袋

呼吸器の保護具：

セクション 6 - 漏出時の措置

漏出（少量）

»

あらゆる発火源を除去する。
すべての漏出物を直ちに清掃除去する。
蒸気の吸入を避ける。
皮膚および目との接触を避ける。
保護具を使用し、人体への接触を抑制する。
砂、土、不活性物質またはパーミキュライトを用いて流出物を覆い吸収する。
拭き取る。
適切な表示のなされた廃棄物処理用容器へ入れる。

漏出（多量）

» 中程度の危険。

現場から人員を退去させ、風上へ移動させる。

消防署に通報し、危険・有害性の場所および内容を伝える。
 呼吸装置および保護手袋を着用する。
 あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐ。
 禁煙および裸火や発火源の使用禁止。
 換気を高める。
 安全性が確保される場合、漏出を止める。
 砂、土またはバーミキュライトを用いて漏出物を覆う。
 リサイクル用の表示がなされた容器へ回収可能製品を回収する。
 砂、土またはバーミキュライトを用いて残留物質を吸収する。
 固形残留物を回収し、廃棄用の表示がなされたドラム缶に密封する。
 現場を洗浄し、排水路への流入を防ぐ。
 排水路または水路の汚染が生じた場合、緊急サービスに報告する。

安全保管



X: 混在させてはならない。
 O: 特定の予防措置をとったうえで混在させてもよい。
 +: 混在させてもよい。

セクション 7 - 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

»

吸入を含む人体へのあらゆる接触を避ける。
 暴露のリスクがある場合、保護衣を着用する。
 換気の良い場所で使用する。
 窪地および排水だめでの濃縮を防ぐ。
 閉所へ立ち入る前に、必ず大気を検査すること。
 禁煙および裸火、発火源の使用禁止。
 禁忌物質との接触を避ける。
 取扱い中は、飲食禁止および禁煙。
 使用時外は、容器を密封して保管する。
 容器の物理的破損を避ける。
 取扱い後は、石鹼と水を用いて必ず手を洗うこと。
 作業衣は、他のものと分けて洗濯すること。
 適正労働作業規範を採用する。
 安全な作業環境を確保するために、設定された暴露基準を参照し、大気を定期的に検査すること。

保管容器に関する注意

» すべての容器が明らかに表示されて、漏れないことを点検する。

保管の際避けるべき事項

» 水、食品、飼料あるいは種子の汚染を避ける。

酸化剤との反応を避ける。

保管

»

最初の容器に保管する。

容器を密封して保管する。

禁煙。裸火または発火源の使用禁止。

換気の良い冷乾所に保管する。

禁忌物質および食品容器から離して保管する。

容器の物理的破損を避け、漏れを定期的に検査する。

保存および取り扱いに関する製造業者の勧告を遵守する。

セクション 8 - 暴露防止および保護措置

暴露防止

製品データ

» データ無し。各成分情報を参照。

保護具



眼

»

サイドシールド付き保護眼鏡。

ケミカルゴーグル。

コンタクトレンズの使用は、特殊な危険・有害性をもたらすことがある: ソフトコンタクトレンズは、刺激物を吸収・濃縮することがある。レンズの装用についてや使用制限を明記したポリシー文書を、作業の種類もしくは場所ごとに作成しておくこと。当該文書には、レンズの吸収や使用化学物質群の吸着に関する検討結果、および障害例の記録等を掲載すること。医療関係者や救急人員は、レンズの取り外し方の訓練を受け、同時に、適切な器具を速やかに使用できるようにしておくべきである。暴露時には直ちに洗眼を開始し、レンズを速やかに取り外すこと。眼の発赤もしくは刺激の初期症候が見られる際には、レンズを取り外すこと。レンズの取り外しは、清潔な環境において、手をよく洗ってから行なうべきである。 [CDC NIOSH Current Intelligence Bulletin 59]

手の保護具

» 軽量ゴム手袋など、一般的な保護手袋を着用する。

手袋の種類ごとの適合性および耐久性は、使用法により異なる。

手袋を選択する際には、使用頻度、接触期間、素材の耐薬品性、手袋の厚さおよび作りなどの要素が重要である。

その他

» 少量の取扱いに際しては、特別な保護具は必要とされない。

その他の場合：

オーバーオール（つなぎ服）

保護クリーム

洗眼ユニット

設備管理

» 通常の動作条件下では、全体排気が適切である。過剰暴露のリスクがある場合には、JIS認可の呼吸用保護具を着用する。適切な保護を確保するためには、正しい装着が肝要である。倉庫あるいは閉鎖的な保管場所では、適切な換気を行う。作業場で発生する大気汚染物質それぞれの「脱出」速度は異なり、その速度により、汚染物質を効果的に除去するために必要となる新鮮な循環空気の「制御風速」が決定される。

汚染物質の種類

気流速度

タンクから蒸発した溶剤、蒸気、脱脂など(静止空気中 0.25-0.5 m/s(50-100f/min)において)。

注入作業、断続的な容器充填、低速コンベヤー輸送、溶0.5-1m/s(100-200f/min)接、飛散、めっき(酸性フューム)、酸洗いから生ずるエアゾール剤、フューム(能動的な生成ゾーンへの低速度の放出)。

直接スプレー、奥行きのないブースでのスプレー塗装、1-2.5m/s(200-500f/min)

ドラム缶充填、コンベヤー荷積み、クラッシャーから生

じる粉塵、ガス放出(気動が速い場所への能動的な発生)

研削、研磨吹き付け、がら研磨、高速車輪から発生する2.5-10m/s(500-2000のf/min)

粉塵(気動が非常に激しく速い場所への速い初速度での放出)。

範囲内における適切な値の決定要素：

範囲の下限

- 1: 室内空気流が最少もしくは捕えやすい
- 2: 汚染物質の毒性が低い、もしくは不快値のみ
- 3: 発生が断続的で少量
- 4: 大型フード/空気流量が多い

範囲の上限

- 1: 室内空気流が乱れている
- 2: 汚染物質の毒性が高い
- 3: 発生量が多く、使用頻度が高い
- 4: 小型フード/局所制御のみ

単純理論では、単一の吸入パイプの開口部から遠くなるにつれ、気流速度は急速に落ちる。

一般的に、速度は吸入口からの距離の二乗で減少する(単純な場合)。したがって、吸入口における気流速度は、汚染源からの距離を考慮して調節すべきである。例えば、吸入口から2m離れたタンクで発生した溶剤を吸引するには、吸入ファンの気流速度は、最低1-2m/s(200-400f/min)であるべきである。吸入装置の機能に欠陥を生じようとする他の機械的事項を考慮すると、吸入システムを導入もしくは使用する際に、理論上の気流速度に10以上の係数をかけることが不可欠である。

セクション 9 - 物理的および化学的性質

物理的性質

液体

水に混和する。

分子量: 該当せず

沸騰範囲 (°C): データ無し

融解範囲 (°C): データ無し

比重 (水=1) : 1.0

水溶性 (g/L) : 混和性

pH (供給時) : 8

pH (1%溶液) : データ無し

蒸気圧 (kPa) : データ無し

揮発性成分 (%vol) : データ無し

蒸発速度: データ無し

相対蒸気密度 (空気=1): データ無し

引火点 (C) : データ無し

爆発限界-下限 (%) : データ無し

爆発限界-上限 (%) : データ無し

自然発火温度 (C) : データ無し

分解温度 (°C): データ無し

形状: 液体

粘性: データ無し

セクション 10 - 安定性および反応性

安定性

»

禁忌物質が存在する。
製品は安定していると考えられる。
危険な重合は起こらないと考えられる。

セクション 11 - 有害性情報

有害性情報 AND 刺激性

» データ無し。各成分情報を参照。

セクション 12 - 環境影響情報

セクション 13 - 廃棄上の注意

» 廃棄物の処理要件を定める法規制は、国や地域により異なる。それぞれの地域にて施行されている法規制を確認すること。地域によっては、特定の廃棄物の追跡管理が必要となる。

段階的な管理が一般的である（取扱者による調査要）：

削減

再使用

再生利用

廃棄（他に方法が無い場合）

当該製品については、未使用の場合や汚染されておらず用途に適する場合には、再生利用が可能である。汚染されている場合には、ろ過、蒸留またはその他の方法による再生が可能な場合もある。このような決断を下す場合、保管寿命も考慮すべきである。取扱い中に物質の性質が変わる可能性があり、再生利用や再使用が常に適切とはなり得ない点に注意すること。

洗浄液や加工機材を排水路に流してはならない。

廃棄に先立ち、全ての洗浄液を回収しなければならない場合がある。

全ての場合において、下水道への廃棄は国内法規制の対象となることがあり、その国内法規制の要件を最優先すべきである。疑問が生じた場合には、担当当局に問い合わせる。

可能な限り再生利用し、さもなければ、再生利用の選択肢についてメーカーの助言を求めること。

処理については、廃棄物管理機関の助言を求めること。

残留物は、承認された場所にて焼却もしくは埋立処分する。

可能であれば容器を再生利用し、さもなければ認可された埋立処分場に埋立処分する。

セクション 14 - 輸送上の注意

必須ラベル:

規制対象外 - 危険物輸送: UN,IATA,IMDG

セクション 15 - 適用法令

法規制

META CRÈME (CAS: なし):

該当なし

調査法規：化管法、安衛法、毒劇法、火薬類取締法、高圧ガス保安法、消防法、化審法、船舶安全法、航空法、海洋汚染防止法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、悪臭防止法、オゾン層保護法、港則法、道路法、水道法、廃掃法、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、化学兵器禁止法および食品衛生法を含む。

セクション 16 - その他の情報

» 製品および各成分の分類は、公式かつ信頼性の高い情報源や、参考文献を使用したChemwatch分類委員会独自の評価によるものです。

委員会で使用した文献等の出典については、www.chemwatch.net/referencesをご覧ください。

» (M)SDSはハザードコミュニケーションのツールであり、リスクアセスメントの一助として使用されるべきである。掲載されているハザードが、作業場やその他の環境においてリスクをもたらすか否かは、様々な要素により決定される。暴露シナリオを参照することにより、リスクが特定されることもある。使用規模、使用頻度および現行の設備管理も考慮しなければならない。

» JIS T 8005:2005 防護服の一般要求事項

JIS T 8115:2005 化学防護服 分類，表示及び性能要求事項

JIS T 8116:2005 化学防護手袋

JIS T 8117:2005 化学防護長靴

JIS T 8122:2007 生物学的危険物質に対する防護服 種類及び試験方法

JIS T 8147:2003 保護めがね

JIS T 8150:2006 呼吸用保護具の選択，使用及び保守管理方法

当データシートは著作権により保護されており、著作権法により許可される個人的な研究、リサーチ、批評もしくは論評等公正な目的に使用する以外には、CHEMWATCHの書面による許可が無い限り、いかなる部分の複製も方法を問わず固く禁じます。(TEL : +61 3 9572 4700)

作成日: 2008年9月1日

印刷日: 2009年01月12日